

# 水泳中の事故を防ぎましょう!

## 溺水等の事故防止

- 指導者は、高い位置から水面だけでなく**水中や水底**も注意深く監視する。
- 児童生徒同士の**バディ**による監視を行う。

## 児童・生徒への指導

- 指導者不在の時には入水させない。
- ふざけさせない。プールサイドを走らせない。

## 健康状態の把握

- **健康観察**、健康相談を実施する。
- 定期健康診断票や学校生活管理指導表を活用する。



## 施設・設備の安全管理

- 水温、水量の確認、AEDの設置場所を確認する。
- 排水口の蓋、破損箇所を点検・修理する。
- 障害物を置かない。

YouTube  
配信中!



AED をすぐに使えるように、手元に置いておきましょう。



## 水泳指導中に体調が急変した事例

水泳の授業で、アップでゆっくり75m泳いだ後、プール内で立って教諭の説明を聞いていたときに、全身硬直を起こした。教諭が引き上げた後も、全身硬直が続いていた。次第に硬直が解けてきたが、自発呼吸はなく、脈拍もなくなった。教諭が心肺蘇生を実施、担架でプール場外へ運びAEDを装着し、1回電気ショックを施した。その後、病院で治療を受けICDの植込み手術を受けた。(高1 / 男子)

## プールサイドでのけがの事例

夏休み、水泳指導が終わった後、バスタオルを首からかけ、両手が出ない状態でプールサイドを走り、転倒し、下顎裂傷となった。(小1 / 女子)

### 水泳の事故防止

#### ～プールへの飛び込み事故を中心に～

プールへの飛び込み事故を中心に、事故の要因などについて、わかりやすく説明しています。

(出典：平成27年度スポーツ事故防止対策推進事業成果物DVD「水泳の事故防止」、学校事故事例検索データベース)

# 入水は、Foot First!

(足から先に)

⚠ 逆飛び込みは危険です ⚠

プール、海、河川等、どんな場所でも、必ず足から入水しよう!

